

## てんたかく81の生育が早回っています。今後の管理に注意！ 中干し後は「間断かん水」と「飽水管理」で根づくりと稲体活力維持を！

### 1 現在の生育状況

#### 【コシヒカリ】

平年に比べ、草丈は長く、茎数はやや多く、葉齢は2日程度早く、葉色は平年並みとなっています。

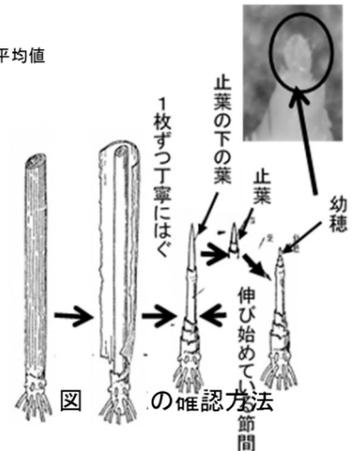
#### 【てんたかく81】

平年に比べ、葉令の展開が早回っています。5/6植えの圃場での幼穂形成期は、**6/23頃と予想**されます。

表 水稻の生育状況 (6/15 調査、アルプス米標準田 24か所平均)

品種		草丈 (cm)	茎数		葉齢	葉色	幼穂形成期
			本/株	本/m <sup>2</sup>			
コシヒカリ (5/12 植え)	本年	42.7	21.1	452	9.4	4.4	—
	昨年	40.2	22.1	471	9.0	4.4	7/10
	平年 <sup>※1</sup>	38.8	20.9	418	9.0	4.4	7/10
てんたかく81 <sup>※2</sup> (5/6 植え)	本年	49.3	32.2	715	10.5	4.7	(6/23) <sup>※4</sup>
	昨年 <sup>※3</sup>	45.2	28.5	652	10.2	4.6	6/28
	平年 <sup>※3</sup>	42.7	26.0	556	10.0	4.6	6/28

※1「平年」はアルプス米標準田H22～R元の平均値  
※2てんたかく81は、県生育観測ほ(立山、上市)2ヶ所の平均  
※3てんたかく81の「昨年」、「平年」はてんたかくH22～R元の平均値  
※4( )は推定値



### 2 今後の管理

#### (1) てんたかく81の穂肥(分施肥系)

1回目穂肥は**幼穂長1～2mmを確認後、直ちに施用**しましょう。

肥料名	施用時期、施用量(kg/10a)の目安	
	1回目	2回目
追肥3号	6/23頃 <sup>※</sup> (5/6植えの場合)	1回目の7～10日後
	10kg	砂壌土 13kg 砂壌土以外 10～12kg

○移植日や標高により施用時期が前後するので、**幼穂長を確認し、施用**しましょう。

○分施肥系で幼穂形成期前に葉色が4.0を下回る場合や、基肥一発肥料を施用した圃場で6月末に葉色が薄い場合は、各営農経済センターにご相談下さい。

#### (2) てんたかく81の防除時期の目安(5/6田植え、幼穂形成期6/23頃、出穂期予想7/14頃の場合)

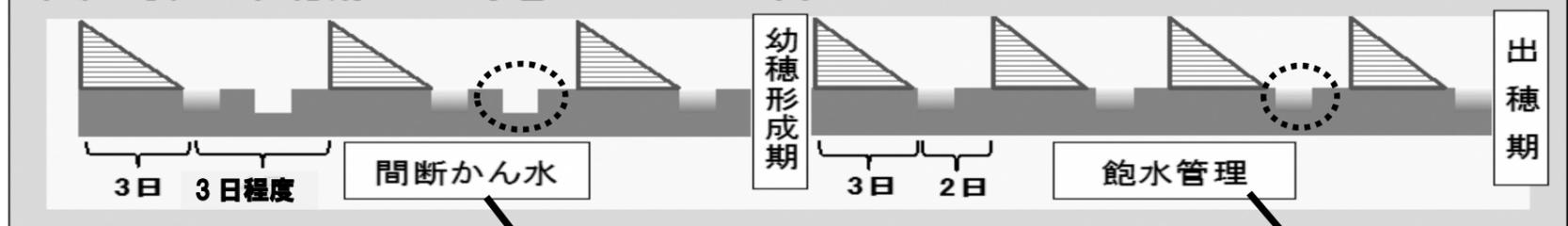
1回目の防除時期	出穂始め(穂が2～3割見られたら) <b>7/10～12頃</b> ※2回目(穂揃期)、3回目(傾穂期)については次号でお知らせします。
粉剤	バリダジョーカー粉剤DL(収穫14日前まで) 【散布量】4kg/10a
液剤	バリダシン液剤5,000倍(収穫14日前まで) + MR. ジョーカーEW 2,000倍(収穫14日前まで) 【散布量】150L/10a
対象病害虫	紋枯病、カメムシ類、ウンカ類、ツマグロヨコバイ

※田植時期等によって生育差があるため、防除時期は生育状況を確認して決めましょう。

#### (3) 中干し後の水管理

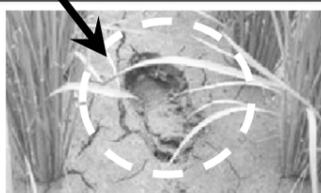
間断かん水	飽水管理
幼穂形成期までは『間断かん水』。湛水と落水を繰り返し、根に新鮮な水と空気を供給しましょう。	幼穂形成期から出穂期までは『飽水管理』を行い、常に、足跡や溝に水が残るくらいの状態を保ち、根の活力維持と葉色の急激な低下を防止しましょう。

#### 中干し後から出穂期までの水管理のイメージ図



#### 落水期間の目安

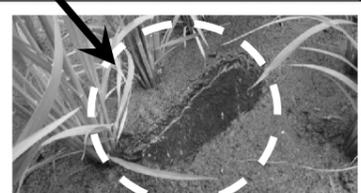
乾きやすい圃場: 2～3日  
乾きにくい圃場: 4～5日



足跡水がなくなったら入水

#### 飽水管理の方法

3cm程度入水後→自然落水→足跡の水がなくなる前に入水(出穂始め頃まで繰り返す)



この状態になったら入水

#### (4) 中間追肥

右表を参考に、**ケイ酸質資材**を施用しましょう。

【効果】①根の活力を高め下葉の枯れ上がりを防ぎます。  
②茎を硬く、倒伏や病気に強い稲体にします。

肥料名	施用時期	施用量
エスアイ加里らくだ	6月下旬	15kg/10a
珪酸加里		20kg/10a

### 3 斑点米カメムシ類の防除対策

～ 適期の草刈りで、斑点米カメムシ類が発生しにくい環境づくり～

今年は積雪が少なく5月が高温で経過したため、**斑点米カメムシ類(以下「カメムシ」)の発生が多くなると予想**されます。水田内や水田周辺のイネ科雑草等は、カメムシの発生源や、本田内へ侵入するための中継地点になります。斑点米の発生を防ぐには、農薬による防除前に草刈りでカメムシの餌場を無くし、生息密度を低くすることが重要です。

～地域全体の草刈りでカメムシの発生源を減らしましょう。～

**草刈り運動期間：7月1日～10日**  
**<一斉草刈り日：7月4日(土)～5日(日)>**

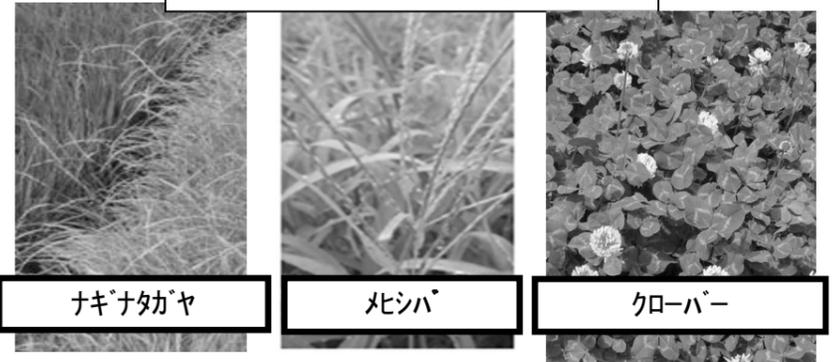
#### <草刈りのポイント>

- 畦畔や雑草地でのカメムシの増殖を抑えるため、**イネ科雑草の穂が出る前に草刈り**を行きましょう。
- 水田内に発生した雑草(ノビエ、ホタルイ等)も、カメムシの餌になりますので、雑草の発生状況に応じて適切な除草対策を行きましょう。

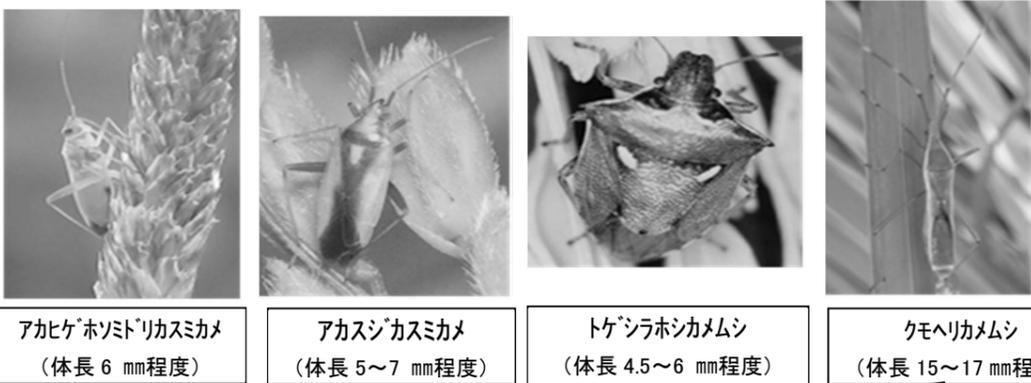
#### <草刈り時の留意点>

- 刈った草を用排水路に流さない。草刈りで道路を汚したら、すみやかに片付けましょう。
- 草刈り機によるケガに十分注意し、草刈り中、近くを人や車が通過する時は、小石等が飛散しないよう注意しましょう。

#### カメムシが好む草種



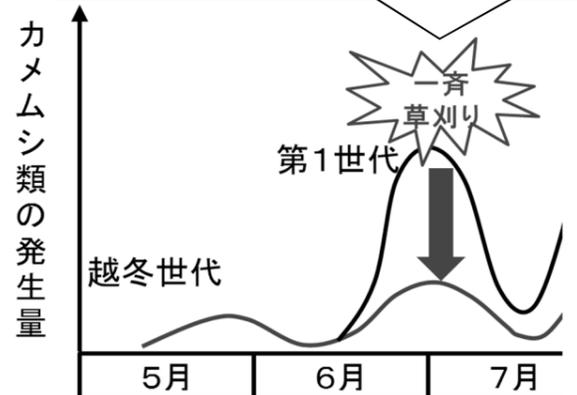
#### 斑点米の原因となる主なカメムシ



アヒゲホソトリカスミカメ (体長 6 mm程度)      アカシカスミカメ (体長 5～7 mm程度)      トゲシラホシカメムシ (体長 4.5～6 mm程度)      クモヘリカメムシ (体長 15～17 mm程度)

管内の一部地帯でクモヘリカメムシが増加しています！  
他のカメムシと同様の対策が効果的です！

一斉草刈りの実施で  
カメムシの生息密度を下げよう!!



### 4 大麦跡圃場の適正管理

大麦跡圃場等をそのまま放置するとスズメノテッポウ等の雑草が繁茂し、カメムシの発生源になります。

**緑肥作物等の作付けによりカメムシの繁殖を抑え、斑点米の発生を防止**しましょう。

また、**何も作付けしない場合は、雑草を鋤き込む等、雑草が繁茂しないように管理**しましょう。

#### 【緑肥作物の作付け】

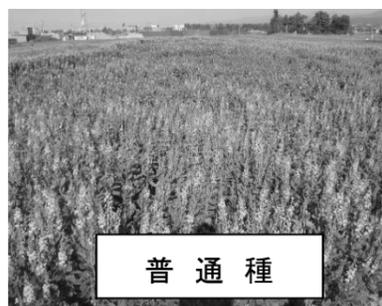
クロタリヤ等を作付けし、雑草の発生抑制と地力向上に努めましょう。

- ◇品種名：「クロタリヤ」(普通種)  
「ネマクリーン」(丸葉種)

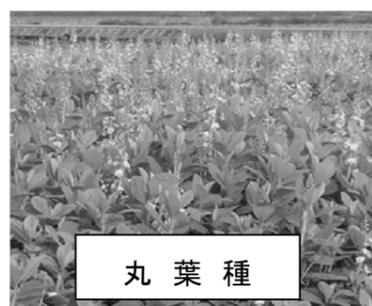
◇播種量：5～6kg/10a

◇播種時期：6月中旬～7月上旬

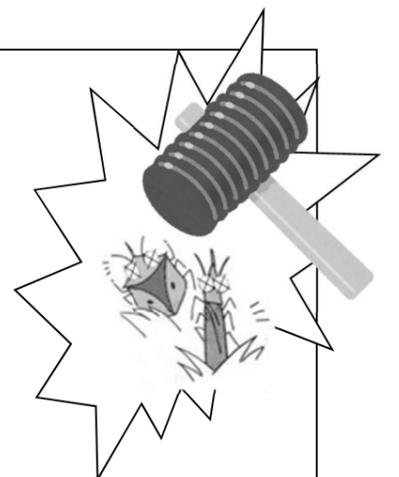
◇すき込み時期：普通種・・・播種後 50～70日  
広葉種・・・播種後 60～80日



普通種



丸葉種



○JA アルプスの適期作業動画解説は YouTube で見るすることができます。

<10 中干し後の水管理>    <11 穂肥散布のポイントと注意点>    <12 品種別の穂肥施用時期と施用量>    <13 草刈り(カメムシ対策)>

